

大阪大学図書館報

Vol.34 No.4 Mar. 2001 (平成 13 年) 通巻 138 号

目 次

- 附属図書館のさらなる発展を期待して
- OPAC が変わります
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・データベース検索システムに新データベース追加
 - ・生命科学分館の土・日曜開館サービス拡大
 - ・吹田分館で日曜開館開始
- 会議・日誌

附属図書館のさらなる発展を期待して

—館長退任にあたって—

西 原 浩

1. まえがき

「図書館は大学のシンボルであり、図書館を見るとその大学のアカデミックレベルがわかる」といわれる。図書館を少しでも良くし、大阪大学の全構成員に少しでも良いサービスができるようにしたいものだと、前述の言葉に励まされながら 3 年間努力してきたが、もう任期がきてしまった。

図書館の使命はこの数年の間に大きく変わってきた。これまでは、図書館は図書館内にある図書資料をサービス（貸出、保存など）しておれば良かったのであるが、コンピュータ技術や

通信技術などの電子技術の発達と共に、図書館にはなくてネットワーク上にある資料をもサービス（配信）しなければならなくなった。このサービスは図書館に要求される新しい重要な研究支援機能である。また、図書館は自習する空間であり、図書資料が必要となる従前通りの学習支援機能も同時に重要である。

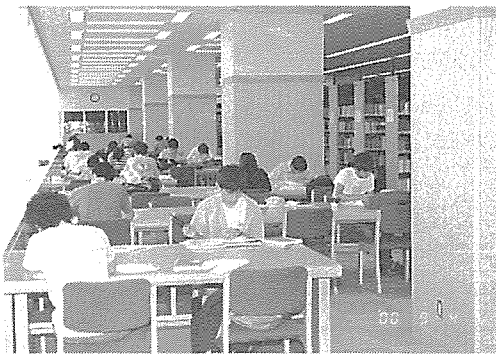
その中であって、図書館職員数の不足、予算の不足などで、やるべきことができないでいる。図書館をめぐる課題は実に多様であり、課題も多岐にわたっている。

2. 組織面の進展

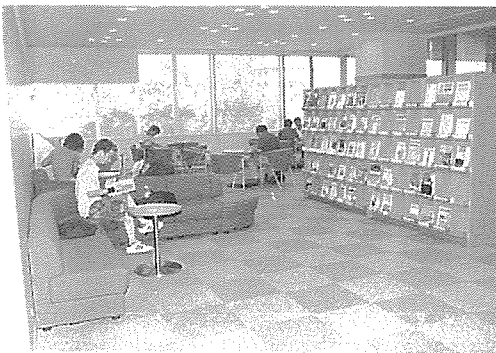
(1) 新館のオープン

これまで、大阪大学附属図書館の本館は狭くて、貧弱であり、老朽化が進んでいた。その増築は、図書館にとり、また大阪大学にとり、永年の悲願であった。先輩の館長や図書館職員のご努力もあり、平成10年度の補正予算で認められたのは、実に有難いことである。

昨年の新館オープンにより、本館の面積は約2倍になり、快適な学習・研究空間が備えられ、9月1日のオープン以来、連日3,000名に近い学生が入館し、閲覧席、学習机、研究個室、グループ学習室、分散端末機、あるいはくつろぎ空間を存分に利用している。



(閲覧コーナーは自習する学生で賑わっている)



(リフレッシュロビーは人気のあるくつろぎ空間)

(2) 日曜開館の実施

これまでは土曜開館は実施してきたが、平成12年4月から本館と生命科学分館が、日曜開館に踏み切った。そして平成13年4月から吹田分館が予定している。日曜開館は以前から要望の強かったものであるが、開始してみると、利用者が毎日曜日平均800人ある。日曜日にサー

ビスしている機関は大阪大学では図書館だけであり、大変好評である。

(3) サイバーメディアセンターとの連携

－電子図書館的機能の充実化にむけて－

大型計算機センターと情報教育センターと図書館の一部が統合されたサイバーメディアセンターが平成12年4月に発足し、図書館の電子図書館部門がセンターの担当になった。同センターの分散端末機79台が新館に設置されており、連日、多くの学生に利用されている。とくに日曜日には、サイバーメディアセンターの建物が閉鎖しているので、図書館内の端末機を利用している。現在、同センターと協力しながら電子図書館的機能の充実・強化に努めている。あとで述べるデータベースや電子ジャーナルのネットワーク配信もその重要なサービスである。



(本館にあるサイバーメディアセンター分散端末機の利用の様子)

(4) 研究開発室の発足

平成11年4月に発足した、館長に対する諮問機関であり、図書館の将来の発展に必要な研究課題について調査・研究するグループであり、室員は室長(館長)を含めて5つの部局に属している8人がある。それぞれの専門分野の立場から図書館の課題に寄与していただいている。たとえば、懐徳堂や適塾コンテンツのデジタル化、海外衛星放送システムの導入(実時間の国際的マルチメディア情報)および学内LAN配信システム、医療情報データベースの構築、ネットワークの充実などである。

しかしながら、残念なことに過去2年間、それなりの努力をしたはずであるが、研究開発費がどこからも入らず、所期の成果が得られなかった。今後に期待したい。

(5) 電子図書館システム専門委員会の発足

これまであった電子情報サービス検討委員会の役割を発展させ、衣替えしたものであり、データベースのサービスを中心に電子図書館充実のため検討している。

(6) 電子ジャーナル導入検討ワーキンググループ委員会の発足

いまや、多くの電子ジャーナルがネットワークを通じて利用できるようになっている。

われわれは、大阪大学全体の学術情報インフラの整備を如何にすべきかという大きな重要な問題に直面していることを認識しなければならない。この問題は全国のいずれの大学においても検討され始めている。わが附属図書館としても、この緊急的課題に取り組むために、「電子ジャーナル導入検討ワーキンググループ」を図書館委員会の下に設置することを提案し、第1回の委員会を平成12年12月に開催した。このWGから近いうちに具体的な方針が答申されることになるが、その折りには全教官のご協力をお願いしなければならない。

3. サービス面の重要課題

(1) 学習支援 ―学生図書の充実―

大阪大学に入学した1年次のすべての学生および多くの2年次学生が豊中キャンパスで共通教育の授業を受けている。彼らにとって自習する場所は図書館しかない。図書館は彼らの学習意欲に応えるものでなければならない。

学生図書の充実が図書館委員会の中でも重要課題として検討してきた。学生一人当たりの図書費は、約2,150円である。平成11年度の学生一人当たりの図書購入冊数は0.33冊である。これはあまりにも少ない。教官当校費のいく

かを実質的に学生図書費に回すなどして、せめて年間学生一人一冊（授業料の1%相当）位の予算（約5,000万円の増額相当）を組めないものであろうか。

ここでもう一つの課題は、学生図書の選定を全学の教官に依頼する形式をとっているが、教官からは必ずしも妥当な選定協力が得られていないことである。教官がもうすこしの時間をさいて学生のために良き図書選定をしていただければ、状況は好転するはずである。教官のご協力をお願いしたい点である。

(2) 研究支援

―データベースと電子ジャーナル―

多くの研究論文の中から必要な論文のタイトル、著者名、掲載雑誌などを迅速に検索することができることは、研究遂行上極めて重要である。そのようなデータベースの購入については、現在は受益者負担方式をとっている。現在、13種類のデータベースがサービス中であり、その全購入費用は約1,300万円であり、どちらかといえば赤字気味である。本来は、受益者負担ではなく、誰でもが自由にアクセスできるようにすべきであろう。

もう一つ重要なのが電子ジャーナルである。最近の外国雑誌の高騰振りは異常であり、過去5年間では、全分野の平均価格の統計によると、米国雑誌で50.2%、ヨーロッパの雑誌で39.4%の高騰であり、この傾向は今後も続くものと推測される。これを反映して、大阪大学における外国雑誌購入数は、図1（次頁）に示すように、過去10年に急減している。

大阪大学における外国雑誌購入費は平成12年度で約5億9千万円であり、このうち教官当校費による購入費は約4億8千万円である。このままでは研究校費に占める外国雑誌購入費が大きくなり、破綻をきたしかねない。しかし調査してみると、かなりの重複購入がある。一方、ネットワークを通して、多くの電子ジャーナルが利用できる状況になりつつある。電子

ジャーナルの導入問題は全学の研究者の研究に直接影響することであるので、迅速にかつ慎重に扱わねばならない重要な課題である。

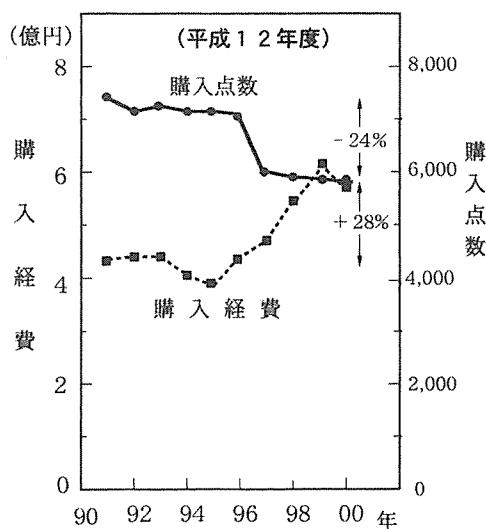


図1 大阪大学における主要外国雑誌の購入点数および購入経費

6. むすび

2001年5月に大阪大学は創立70周年記念を迎える。その前に附属図書館に新館が建設されたことは、ともかくも喜ばしいことである。

現代のマルチメディア時代において、大学図書館に要求される機能は、いままで比べるとはるかに多様化している。幸い、附属図書館の電子図書館的機能の充実は今後はサイバーメディアセンターと協力して遂行していくことになっており、展望は明るい。

附属図書館における重要な課題は、この他にも多くある。今後の図書館の発展は、全学教職員の一層のご理解とご協力がなければ前進しないであろう。今後の発展を切に祈念するとともに、皆様からいただいた多方面のご支援に感謝する。状況の厳しい中、常勤、非常勤を問わず図書館のために献身的に働いておられる図書館職員に頭の下がる思いをさせられることがしばしばあった。3年間の任期を終えるにあたり、図書館について右も左もわからなかった私を温かく支えて下さった図書館職員に心からお礼を申し上げる。

(にしはら・ひろし 附属図書館長・工学研究科教授)

OPACが変わります

大阪附属図書館では、平成13年度から図書館システムを更新します。この新しいシステムの導入によって、端末台数の増加、処理速度と操作性の向上を実現し、図書館業務の一層の効率化とサービスの向上をめざします。

新図書館システムでは、利用者の方に関係の深いOPAC(蔵書検索システム)のインターフェースも大きく変わります。複数検索語の組み合わせによる入力、漢字による単語検索、多様な表示方式など、これまでになかった数々の新機能が使えるようになります。

新OPACと、現行のOPACとの主な違いは、以下のとおりです。

	旧システム(現在のOPAC)	新システム
インターフェース	X-Window版(館内端末)、Web版、コマンド版の3種類	Web版のみ(館内・館外とも)
検索語入力方法	一つの入力枠に入力できる検索語は一つ	一つの入力枠に複数語の入力が可能
	単語の入力はカナ、英数字のみ	漢字で単語入力が可能
	欧米の著者名は、原綴での入力が必要	欧米人の名前もカナで検索可能

検索機能	シリーズ名からのリンクによる再検索が可能 (Web版のみ)	シリーズ名、雑誌の継続前・後誌、著者名からのリンクによる再検索が可能
	検索範囲の限定はできない	所蔵部局、出版年、分野、出版国、言語により限定して検索が可能
表示機能	英語モードに切替ができるが、所蔵は日本語でしか表示されない	英語モードで検索した場合は所蔵も欧文で表示
	所蔵は詳細画面でしか表示できない	書誌・所蔵を同時に一覧表示できる

簡略検索画面 (右)

簡略検索画面では、タイトル、著者、出版者等、書誌情報のどの部分からでもキーワードを自由に組み合わせて入力し、検索することができます。

詳細検索画面 (左)

詳細検索画面では、書名中の単語、書名全体、著者、出版者、件名、ISBN、ISSN等の各種コード、分類、資料番号から資料を検索することができます。また、この画面で検索する場合は、検索対象を図書・雑誌、和書・洋書、所蔵部局、分野、出版国、言語によって限定することができます。

書誌・所蔵一覧表示画面 (右)

検索結果の書誌と所蔵を同時に一覧表示できます。書誌の表示方法は、右画面のような簡略表示か、全書誌データを表示する詳細表示のどちらかが選べます。

新 OPAC は、4 月 1 日より正式公開の予定です。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (2000/Dec.2001-Feb.) ■■■■■

本 館	
鈴木 毅 (工、助教授)	JKKハウジング大学校講義録 1 東京：小学館スクウェア, 2000 (吹田分館にも寄贈)
岸本 忠三 (総長)	現代免疫物語: 花粉症や移植が教える生命の不思議 / 岸本忠三, 中嶋彰著 東京：日本経済新聞社, 2000 (生命科学分館にも寄贈)
安達 丈夫 (言文、非常勤講師)	エル・シッド・カンパアドル / ラモン・メネンデス・ピダル著; 安達丈夫訳 東京：文芸社, 2000
矢部 丈太郎 (文、教授)	独占禁止法の理論と実務 / 伊従寛, 矢部丈太郎編 東京：青林書院, 2000 (現代法律実務解説講座 1)
生命科学分館	
岡本 光弘 (医、教授)	Molecular steroidogenesis : proceedings of the Yamada Conference LII on Molecular Steroidogenesis held on August 25-28, 1999, in Nara, Japan / edited by M. Okamoto, Y. Ishimura, H. Nawata Tokyo : Yamada Science Foundation and Universal Academy Press, c2000
森本 兼曩 (医、教授)	ストレス危機の予防医学: ライフスタイルの視点から / 森本兼曩著 東京：日本放送出版協会, 1997
	ライフスタイルと健康: 二十一世紀環境医学の展望 / [森本兼曩ほか著] 大阪：大阪大学医学部環境医学教室, 1998 森本兼曩教授開講十周年記念
橋本 一成 (名誉教授)	第三の体液循環 / 橋本一成著 東京：フリープレス, 2000
野島 博 (微研、教授)	新細胞周期のはなし / 野島博著 東京：羊土社, 2000 (実験医学バイオサイエンス 32)
前田 芳信 (歯、教授)	インプラント補綴のリスクファクター: 予知性を高めるための臨床的分析法 / Franck Renouard, Bo Rangert [著]; 前田芳信、米畑有理訳 東京：クインテッセンス出版, 2000
倉智 嘉久 (医、教授)	Pharmacology of ionic channel function : activators and inhibitors / contributors, S. Adachi-Akahane ... [et al.]; editors: M. Endo, Y. Kurachi, and M. Mishina. Berlin : Springer, c2000 (Handbook of experimental pharmacology ; v.147)
中川 八郎 (名誉教授)	脳を鍛えて健康・長寿: 百歳時代を演出する還壮医学への誘い / 中川八郎著 東京：共立出版, 2000 (蛋白質研究所図書室にも寄贈)
吹田分館	
住田 健二 (名誉教授)	原子力とどうつきあうか: JCO臨海事故体験 / 住田健二著 東京：筑摩書房, 2000 (ちくまプリマーブックス ; 140)
黄地 尚義 (工、教授)	宇宙の溶接 / B.E.パトン, V.F.ラプチンスキー著; 黄地尚義訳 東京：産報出版, 2000
西原 浩 (工、教授)	光・電磁波工学 / 西原浩編著 東京：オーム社, 2000 (新世代工学シリーズ)
横山 正明 (工、教授)	導電性高分子材料 / 横山正明[ほか]執筆 東京：シーエムシー, 2000
微生物病研究所図書室	
野島 博 (微研、教授)	顕微鏡の使い方ノート: 光学顕微鏡からCCDカメラまで / 野島博編集 東京：羊土社, 1997 (無敵のバイオテクニカルシリーズ 7)

(敬省略、受付順)

お知らせ

●データベース検索システム到新データベース追加

平成13年度から附属図書館データベース検索システムに、以下の二つのデータベースを追加することになりました。

1. Cochrane Library

コクラン共同計画により作成されている臨床医学系データベースで、EBM(Evidence-based Medicine)の国際的な情報インフラとして評価されています。

2. Journal Citation Reports (Science ed.)

Journal Citation Reports(JCR)は、学術雑誌間の引用関係を統計データ化したデータベースで、インパクト・ファクターを調査するためのツールとして知られています。

このデータベースのCD-ROMは、これまで生

命科学分館がスタンドアロンで提供していましたが、13年度からネットワーク利用での提供を開始します。ネットワーク版は今年夏頃に発行される新版から提供開始の予定です。

●生命科学分館の土・日曜開館サービスの拡大

生命科学分館では、平成13年度から土曜、日曜の開館時間を10:00～17:00に拡大し、同時に貸出サービスを実施します。

●吹田分館で日曜開館開始

本館、生命科学分館に続いて、吹田分館でも平成13年度から日曜開館を実施することになりました。開館時間、サービス内容は土曜開館と同じです。

会 議

電子ジャーナル導入検討WG委員会

12. 8 (金) 10:00～11:40

以下の議題について審議した。

1. 外国雑誌購入等の諸問題
2. 今後の取り組み

分館長会議

12. 15 (金) 9:35～9:55

1. 図書館委員会の打ち合わせを行った。

図書館委員会

12. 15 (金) 10:05～11:40

1. 次期附属図書館長候補者として、川北稔文学研究科教授を総長に推薦することとした。

電子ジャーナル導入検討WG委員会

13. 1. 15 (月) 15:05～16:30

以下の議題について審議した。

1. 他大学の重複雑誌調整事例検討状況について。
2. 今後の取り組み

電子図書館システム専門委員会

1. 26 (金) 10:00～11:20

1. 委員長に和田健委員を選出した。
2. 平成13年度データベース検索システムの料金等について審議し、原案どおり承認の上、図書館委員会に諮ることとなった。

吹田地区運営委員会

2. 5 (月) 13:30～14:40

1. 次期吹田分館長候補者に北川浩工学研究科教授を選出した。
2. 吹田分館の日曜日開館等について審議し、了承された。
3. 平成13年度自然科学系図書資料収書計画について審議し、Landolt-Börnsteinを推薦することが了承された。

図書館体系検討小委員会

2. 6 (火) 10:00 ~ 12:00

1. 諸規程の改正

- ①大阪大学図書館委員会規程の一部改正を承認した。
 - ②大阪大学附属図書館利用規程を一部修正のうえ、承認した。
 - ③大阪大学附属図書館豊中地区運営委員会規程の一部修正案を、豊中地区運営委員会で諮り、図書館委員会へ上呈することとした。
 - ④大阪大学附属図書館吹田地区運営委員会規程の一部改正を承認した。
2. 学生用図書の実用等について審議した。

生命科学分館運営委員会

2. 14 (水) 10:00 ~ 11:45

- 1. 次期分館長候補に、中村仁信医学部教授が選出された。
- 2. 平成13年度自然科学系図書収書計画について、各講座あてに推薦依頼を行うこととなった。
- 3. 平成13年度の休日開館について、非常勤職員による開館、10時から17時までの開館時間の延長、及び業務内容の拡大が提案され了承された。

研究開発室会議

2. 20 (火) 15:00 ~ 17:00

以下の各議題について審議した。

- 1. 新館マルチメディア・ネットワーク・コーナーの整備
- 2. 懐徳堂・適塾資料のデジタル化
- 3. 電子図書館化の推進
- 4. 新しいデータベース構築
- 5. 図書館への導入を目的としたICタグ技術問題の検討

電子ジャーナル導入検討WG委員会

2. 21 (水) 15:00 ~ 16:30

電子ジャーナル導入検討に関するアンケート原案等について審議した。

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

H12.	12.	1	電子図書館サービス・オンラインジャーナル説明会	(本館)
	12.	8	電子ジャーナル導入検討WG委員会	(本館)
	12.	15	分館長会議	(本館)
	12.	15	図書館委員会	(本館)
H13.	1.	15	電子ジャーナル導入検討WG委員会	(本館)
	1.	17	大阪大学附属図書館職員研修会	(本館)
	1.	25	国立大学附属図書館事務部長会議	(徳島大学)
	1.	26	電子図書館システム専門委員会	(本館)
	2.	5	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
	2.	6	図書館体系検討小委員会	(本館)
	2.	9	図書館電子化システム特別委員会近畿地区WG	(京都大学)
	2.	14	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
	2.	15	大学図書館情報化促進会議	(学術総合センター)
	2.	19	NACSIS-CAT/ILL 講習会担当者会議	(国立情報学研究所)
	2.	20	研究開発室会議	(本館)
	2.	21	電子ジャーナル導入検討WG委員会	(本館)